



認知症とともに、自分らしくあるために

発行: 諏訪市地域医療・介護連携推進センター ライフドアすわ  
TEL.(0266)78-0477 FAX.(0266)78-0478  
E-mail:info@lifedoor-suwa.jp

認知症を理解するための9大原則

1:記憶障害に関する法則

話したこと、見たこと、行ったことも、直後には忘れてしまう。同じことを繰り返すのは毎回忘れてしまうため。

2:症状の出現強度に関する法則

より身近な者に対し認知症の症状がより強く出る。

3:自己有利の法則

自分にとって不利なことは認めない。

4:まだら症状の法則

認知症の症状が出ているときと、そうでない時がある。

5:感情残像の法則

言ったり、聞いたり、行ったことはすぐ忘れるが、感情は残像のように残る。理性から感情の世界へ。

6:こだわりの法則

ひとつのことにいつまでもこだわり続ける。説得や否定はこだわりを強めてしまう。

7:作用・反作用の法則

認知症の人は周囲の空気を感じとる。介護者がイライラすれば、その感情がかえってくる。

8:認知症症状の理解可能性に関する法則

一見不可思議に感じる言動や行動も、認知症の人の立場に立ってみると、すべての症状は理解、説明がつく。

9:衰弱の進行に関する法則

認知症の人の老化の速度は非常に速く、認知症になっていない人の約3倍のスピード。(聖マリアンナ医大長谷川名誉教授の報告)

介護に関する原則

認知症の人は何もわからないわけではありません。その人それぞれの世界があり、その世界を生きています。認知症を理解し、認知症の人の世界観を大切にしましょう。

<参考> 川崎幸クリニック院長 杉山孝博 (公益財団法人 認知症の人と家族の会)

その1 最初に気づくのは自分



その2 感情的な態度や言葉は傷つく



その3 納得



介護エピソード (家族の会「こむぎの会」より)

今も覚えているのは、父が認知症の母を怒る姿です。認知症であることを家族が受け入れることは、難しいです。母は当時、共同風呂を利用していましたが、服を間違えてしまうため一緒に行くようにしていました。それでも周囲から嫌味を言われることもあり、なんとも言えない気持ちになりましたが当時は無我夢中でした。

<長野日報提供>

その4  
一人歩きの理由



その5  
うまく表現できないときもある



その6  
自分で見つけられることが安心



<長野日報提供>

その7  
否定せず耳を傾けて



その8  
孤立しない



その9  
街の中に仲間を見つけましょう

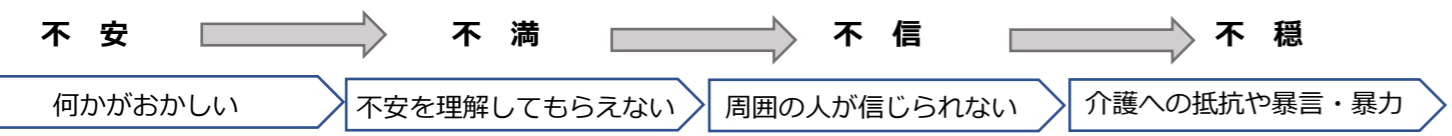


<長野日報提供>

本人の気持ち

- 私がやることをどうして止めるの。自分のことは自分でできるのに...
- 言葉がでてこない。どうしたらわかってくれるの。
- 本当のことを言っているのに、信じてくれないなんて!
- どうして怖い顔をしているの。私、何かしてしまったの。

認知症の症状は4つの段階を経て悪化していきます



自尊心を傷つけないサポートが、本人の安心につながります。

介護エピソード (家族の会「こむぎの会」より)

人が人を見るのだから100%は無理です。最近はテレビなどで、認知症の人には「優しく、笑顔で、怒らない」と聞かされていますが、そうは言われていない状況でした。なんでもやってあげようではなく、できないことを手伝うようにしていました。

認知症の方に穏やかに過ごしていただくために

介護する方が「元気でいること」が大事です。介護保険や地域のネットワークを活用して同じ立場にある人とのつながりや、本音を話せたり相談できるコミュニティをもち社会とつながりましょう。